

B：宮城県コース

匿名希望

昨年3月11日の震災後ニュース、新聞等でその惨状を見てきてはいましたが、今回の企画を校友会会報で知り、実際に自分の目で確かめる絶好の機会と思い参加させていただきました。

仙台空港に降り立った時には、あの震災直後の水浸しの面影はなく、仙台市内もほとんど復旧して、その機能を回復している様に見られ安心しました。ところが松島観光にて、島の形状が変化する程の津波の威力を目の当りにし、その時の恐怖を感じました。

海岸線から住宅地にかけては、何もなく、ガレキの山が点在し、住宅は基礎のコンクリートだけが残っている現状に、むなしさを覚えました。

防災センターでは、あめ細工の様にねじ曲った鉄骨の太さに驚きました。ニュースなどでは、その太さを知る事が出来ませんでした。ここで、津波の非難を最後まで放送されていたのかと思うとその責任感の強さに胸がしめつけられました。ごく一部の被災地の訪問でしたが、1年7ヶ月という月日が流れていても、何もなすすべもなく放置されている様に思われました。そんな折に復興予算を庁舎の改築等、復興地以外の所へ多額の出費がされているとの報道を見聞きしますと、役人方に是非とも被災地へ足を運んでもらいたいと思います。最近では断層の調査等も多く行なわれている様ですが、火山列島の日本なのでから地震は避けられないと思いますので、原子力発電所は立地すべきではなく、勿論、今後の稼働もすべきではないと切に願います。

まだまだ復興には時間も経費がかかると思われますので、風化させる事なく、日々問題意識を持っていこうと思いました。

今回のツアーに参加させていただきありがとうございました。